

右ページ・右上・右下 花以外に野菜や果実も空間の手にかかる。向井山さんの手にかかる。2人を囲むのは、向井山さんの愛嬌の自画像。左ページ右壁にかかれた大きな世界地図に、語ねた国々をマークアップ。左上・アーツセンターは、センスのいい料理人でもあります。色とりどりのトロトロが宝石のよう。美しい。左下・ピアノは向井山さんの人生の活力と変え。

「衣食住の中で、私がいちばんこだわっているのが、食。食べ物です。お仕事をしながら、お食事の断新な建築物が立ち並ぶ東部湾岸地区にある自宅はビノスタジオと一緒にしているため、ミーティングで訪れる人も多い。のテーブルでミーティングをしながらご飯を食べると、成功することが多いんです。テーブルが大きいとプロジェクトも大きくなる」と聞いた話が耳に残っているからでしょうか

この日はそんなラッキキキツンに、公私ともに親しいコッホの来賓、ウイリスムさんを迎えてランチタイムング。和やかなひとときを過ごしました。

仕事を日常もすべては食を通して

この秋、さいたまトリエンナレや宮中の伊東豊雄氏のオペラハウスのおトニクを飾る作品の発表を控え、日本との行き来が多い向井山朋子さん。今年で在蘭25年を迎えます。彼女の暮らしの中心は、10年前に2部屋をつなげてリノベーションしたキツツン。広々とした空間の主役はジク、ガス台、調理台を1枚のステンレス板で飲み込んだ、全長5メートルのテーブル。これらを手がけたのは、同じアムステルダムに住む建築家の吉良藤子さん。男性的なデザインは、向井山さんひと目で気に入っています。

Profile

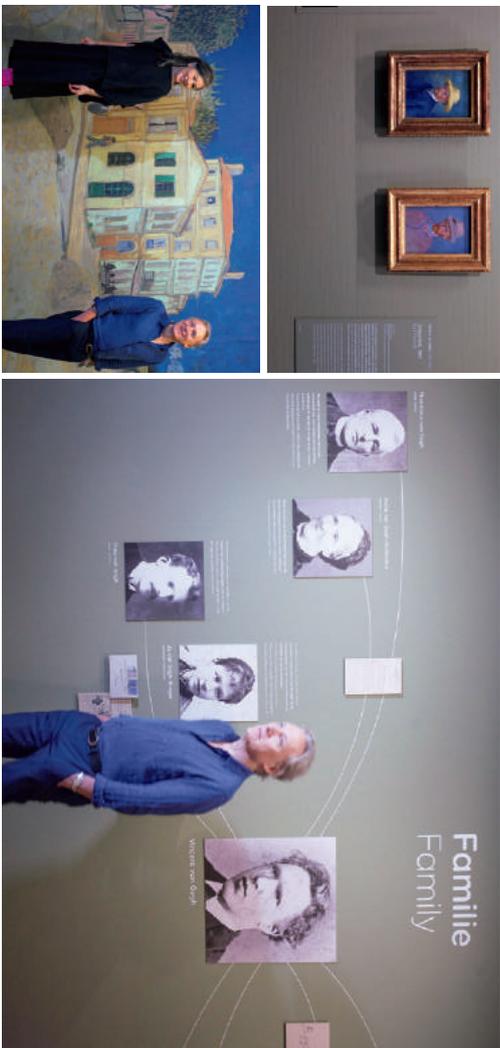
向井山朋子さん

オランダのアムステルダムに拠点を置く建築家。コッホ美術館のキュレーターとして活躍。

コッホの弟オットロアの曾孫。弁護士を経て、現在はコッホ美術館のキュレーターとして活躍。

ゴッホの絵に囲まれて育った幼少時代

向井山 ウイルムさんは画家のフアンセント・ファン・ゴッホの末裔ですが、ゴッホの弟のテオドロス(テオ)の曾孫になる予定です。ウイルスム 私の祖父の父がゴッホの弟で、画商だったテオです。兄を尊敬していたテオは、祖父が生まれるとゴッホと同じ名前をつけました。ゴッホは生涯独身だったため、本人とテオの死後、膨大なコレクションはテオの妻ヨハネと息子(の祖父)に引き継がれたのです。**向井山** 「花咲くアモント」の油彩は、あなたのおじさまの誕生を祝って贈られたものでしたね。**ウイルスム** その絵は祖父の居間に飾られていました。私はまだ11歳でしたが、輝くように美しいアール・ヌーヴォーの雰囲気を覚えています。祖父はすべてのコレクションを働いた人です。それは今、ゴッホ美術館に展示しているものですね。**ウイルスム** はい、ゴッホの油彩が



右・家系図の前で、ウイルスムさんはゴッホの弟テオの曾孫にあたる。左上・左はゴッホの自画像と思われていたが、弟のテオの肖像画であることが近年判明した。左下・「黄色い家」のレリフリカの前で。

約200点、素描が約500点、書簡約70通、他にゴキヤンやロートリクなどを。それらの絵が自宅のあらゆるところに飾られていました。両親も祖父から4枚の絵を貸し出してもらい、側に飾っていました。**向井山** 信じられないほど贅沢な環境でお育ちになったんですね。ウイルスム それは当時の私たちにとってはリアルなことでした。向井山 自分の家庭が特別だと思っていたのは、いつ頃ですか。ウイルスム 9歳の夏休みです。南側のホテルで祖父の居間にある「ひまわり」の複製が飾られていたのを見ました。そのときに自分とは特別なのだ、と実感しました。**向井山** ゴッホは20世紀初頭から、皆に知られていましたね。ウイルスム 有名ではありましたが、今ほどではありません。また多くの作品が世に出ていなかったからです。祖父母や両親は彼の絵を自宅に保管していたため、セキエリイには無いものもありました。キッチンの上には鍵がかかっていた。ないことさえありました。

フアンセント・ウイルスム・ファン・ゴッホさん×向井山朋子さんが ゴッホが本当に遺したかったもの

ゴッホの末裔、ウイルスムさんと親友の深い向井山朋子さんが、家族しか知らない画家ゴッホにまつわる話をインタビュー。そこから見えてきたのはゴッホ美術館を設立した、テオの息子の思いと過去と未来を結ぶゴッホからのメッセージでした。

Profile

”誰も知らなかった、家族のお話を聞かせてください”



